

学校名	みやき町立中原中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者、生徒アンケートでは、すべての項目について肯定的な回答が過半数であり、好意的な評価を得ている。</li> <li>・校内研究を中心として、学びに向かう力を高める指導方法の工夫のため、評価方法の充実をめざしながら、重点目標達成に向けた共通した教育実践を行うことができた。</li> <li>・教職員の働き方改革の推進のため、衛生管理委員会等を活用し業務の見直しを図ることで、全職員が意識した取り組みを行うことができた。</li> <li>・次年度も継続して、指導と評価の一体化を目指した授業改善や開発的生徒指導、道徳教育の充実、また働き方改革に全職員で取り組みたい。</li> </ul>
2 学校教育目標	<p>ふるさと中原を創る志をもった生徒の育成</p> <p>～自律・協働・挑戦をキーワードとした学校づくりを通して～</p>
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒一人一人に「自己指導能力」を身につけさせる生徒指導の推進</li> <li>○ 「地域とともにある学校」の具現化（コミュニティ・スクール元年）</li> <li>○ 学力向上のための取組の充実・発展</li> <li>○ 道徳科を中心とした豊かな心の育成</li> <li>○ 切れ目のない生徒の学びを保障する「安全・安心」な教育環境づくり</li> </ul>

4 重点取組内容・成果指標				主な担当者
(1) 共通評価項目				
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研究会等により取組の促進を図る。	小林(学力向上対策C)
	○学びに向かう力を高める指導方法の工夫と授業の実践	○12月に行う生徒アンケートにおいて「主体的に学習に取り組む態度」で肯定的な回答をした生徒80%以上 ○「学習用PCを使って、主体的に授業に参加することができた」で肯定的な回答をした生徒80%以上、「学習用PCを積極的に活用した」で肯定的な回答をした教師90%以上	・校内研究会での取組を、自らの日々の授業実践や自己評価に生かす。 ・学びに向かう力を高めるために、校内研究会において、各教科の実践例を紹介し、取組の促進を図る。	鶴(校内研究)
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○アンケート調査で「いじめ・差別・暴力のない学校」と回答をした生徒90%以上 ○アンケート調査で「友だちに思いやりの心をもって行動している」の項目で肯定的な回答をした生徒90%以上	・年度初めに全クラスでいじめに関する道徳・学活の授業に取り組む。 ・人権週間(人権集会)や「いのち・生き方を考える日」では、生徒主体の取組を行い、生徒朝会において全校で「いじめ撲滅宣言」を唱和し、生徒や教職員の人権感覚を磨く。 ・QUテストの結果をもとに個別に支援を行い、学級満足群のポイントを上げ、学級に対する誇りをもつ。	塚元(道徳教育) 鶴(人権教育)
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○アンケート調査で「いじめ・差別・暴力がない学校になることを目指して指導している」と回答した教員90%以上 ○アンケート調査で「生徒に「役割・出番」を与え、「承認」することを意識した指導を行っている」と回答した教員80%以上	・学年経営・学級経営を通して、いじめを発生させない雰囲気づくりに努める。 ・道徳の授業を通じ、道徳性を育成する。 ・学校行事や生徒会活動で生徒がより主体的に取り組む場を用意し、「役割・出番」→「承認」→「成長」というサイクルを実践することにより、生徒に達成感・成就感、自己肯定感をもたせる。 ・発達支持的生徒指導の推進を図り、主体的な選択や決定を促し、自己指導能力を身に付けさせる。	浜本(生徒指導) 大坪(教育相談)
	●◎生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●◎「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒70%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒70%以上	・学級活動や総合的な学習の時間等で、生徒に夢や目標について自ら考えさせる場面を設定する。 ・ナームー活動(中原ふれあい教育を進める会)を中心に、地域との触れ合いを深める。 ・コロナ禍において工夫を行いながら各種行事を実施し、生徒が活躍できる機会を保障する。 ・学級活動や総合的な学習の時間等で、生徒に夢や目標について自ら考えさせる場面を設定する。 ・各種行事を実施し、生徒が活躍できる機会を保障する。 ・各種体験活動では、生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	北島(学級活動) 澁谷(総合的な学習) 栗山(教務)
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上 ●「早寝・早起き・朝ごはん」を呼びかけ、生徒達成率80%以上、保護者達成率90% ●給食後の歯みがきの励行を呼びかけ、生徒の達成率80%以上	・集会等で「早寝・早起き・朝ごはん」の重要性について保健指導を行う。 ・保健便りや掲示物等で啓発する。 ・保健室来室者や生活習慣が乱れている生徒に個別に保健指導を行う。 ・生徒会で食後の歯みがきを呼びかける。 ・歯科衛生士による歯みがき講話を行う。	寶石(健康安全)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する	・週1回の定時退勤日を月曜日と設定する。 ・夏季休業中及び冬季休業中に学校閉庁日を設定する。 ・週2回、部活動休養日を設定する。 ・業務の効率化を図るために、職員間で協働する意識をもつ。	栗山(教務) 教頭
	○校務等の効率化の促進	○各分掌の業務が組織的に分担して遂行できていると回答する教職員70%以上 ○教職員の時間外勤務について、前年度と同等とする	・各分掌の業務を主任(チーフ)に伝え、人材育成の視点を持ちながら分掌メンバーで分担して遂行するように呼びかける。 ・電子供覧等を活用して、ペーパーレス化を図る。 ・各教職員の勤務時間を把握し、衛生管理委員会を活用しながら、時間外勤務が多い教職員を面談するなどして、原因と解決方法を探る。	教頭
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
○生徒指導	○生徒指導・教育相談体制の充実	○教育活動の中に、開発的生徒指導の手法を積極的に取り入れ、アンケート調査で「生徒に「役割・出番」を与え、「承認」することを意識した指導を行っている」と回答した教員80%以上 ○生徒の課題解決・自己実現に向け、年2回の教育相談の実施 ○生徒の情報交換を密にするため、組織力を強化し、週1回の生徒指導委員会と月1回の生徒指導協議会の実施 ○学期ごとのスクリーニング会議の開催	・節目節目の黄金の1週間や、「役割・出番」→「承認」→「成長」というサイクルを教育活動全体で実践する。 ・年2回の教育相談を実施するとともに、気軽に相談できる雰囲気づくりに努め、不適応や不安を抱えた生徒の早期発見に努める。SCやSSWおよび関係機関と連携し、早期に対応する。 ・毎週生徒指導委員会を開催し、SCやSSWIにも参加してもらい、生徒の情報交換を密に行うことにより早期解決を図る。 ・スクリーニング会議を開くことで、要配慮生徒の把握や支援についての共通理解を図る。	
	○特別支援教育の充実	○年間3回、特別支援教育の職員研修の実施 ○特別支援教育についてのセンター研修内容の共有 ○月1回の生徒指導協議会での情報共有 ○教室のUD化実施(一昨年の校内研の内容を継続する) ○関係機関との情報共有と支援内容の充実	・特別支援教育の研修においては、個別的教育支援計画、個別の指導計画の書き方、境界域の生徒の対応などについての内容を扱う。 ・コーディネーターが受けた研修の資料を回覧するなどして、研修内容の共有を図る。 ・生徒指導協議会において、情報を共有し、共通理解を図るとともに、特別支援学級在籍生徒への支援の方法などを共通理解し共通実践する。 ・全教室(掲示物は後方に貼る)や授業内でのUD化(授業内のめあてやまとめ、学習内容・流れを視覚的に示す)を図る。 ・SC、SSW、SSF、医療機関、巡回相談員、エリアリーダーなどの関係機関との情報共有をし、支援内容の充実を図る。	待鳥(特別支援教育C)

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	
--------------------	--